

令和元年度 第1回学都松本子ども読書活動推進委員会 議事録

日時：令和元年8月26日（月）10：00～12：00

場所：松本市中央図書館 第1視聴覚室

【出席者】

上條委員、小林委員、赤津委員、豊嶋委員、越高委員、小穴委員
（事務局）瀧澤中央図書館長、町田館長補佐、小林事務員、石原事務員

【欠席者】

三ツ井委員、百瀬委員、舟田委員

【議事録】

1 開会

2 館長あいさつ

事務局を代表して挨拶。

学都松本子ども読書活動推進委員会は、第1次計画期間内では設置及ばず、第2次計画の初年度に設置でき、推薦公募による9名の方に委嘱申しあげることになった。任期は令和元年7月25日から令和3年7月24日までの2年間。よろしくお願ひしたい。

委員会の役割は、設置要綱に記載されているが、学都松本子ども読書活動推進計画の効果的な実施と継続的な推進のために、第2条所掌事項について委員からの忌憚のない意見や要望をいただき、計画に反映させていくものである。

庁内に教育部各課、健康づくり課、こども育成課、保育課、地域づくり課等の職員で組織する子ども読書活動推進庁内調整会議を設置している。

この2つの会が十分に力を発揮しながら、本市における子ども読書活動の実績、成果、課題や目指す姿を共有し、連携し計画の進捗状況を管理し調整を図りながら効果的に計画を推進したい。

本日の会議は、はじめに委員長、副委員長の選出をしていただきたい。その後、議事で報告事項2件、協議事項3件について意見をいただきたい。

本市の子どもの読書活動の推進にお力添えいただくようお願いしたい。

3 出席者自己紹介

4 委員長及び副委員長の選出

出席委員の互選により、委員長：豊嶋委員、副委員長：上條委員に決定。

5 議題

【報告事項1 第2次学都松本子ども読書活動推進計画について】

事務局：説明

委員：乳幼児への取り組みが重点的で小学校に関する取り組みは学校の中だけなのか。

事務局：一見そのように見えるが社会情勢を鑑みて、まずは乳幼児へ力を入れている。決して小中高生を疎かにしているわけではない。

委員長：計画本編にPTAや読書ボランティアの協力による読み聞かせ、学校図書館司書の専門的知識・技能等向上のための研修等の記載があり、学校を疎かにしているわけではないと捉えている。

重点的な取り組みでサードブックは2次計画中に実施すると明記されている。

子ども読書推進サポーター、読書案内人が設けられ予算化されていて第1次学都松本子ども読書活動推進計画より大きく進展している。

【報告事項2 ブックスタート・セカンドブック事業について】

事務局：説明

委員：何を渡すか、どのように渡すかはとても大事だと考える。出版状況を鑑みて、絶版にならない絵本を選びたい。本を渡すだけでなく、幸せな時間を提供する事業だ。説明しないと選ばれないもの、説明されて納得する絵本がある。一番大事なことは、説明する職員、ボランティアが実際に読んでみる時間が必要。松本市から配布するものだから、時間をかけて検討したい。

委員長：今まで図書館職員がブックスタートの配布本を選書していた部分へ委員や作業部会で意見をいただきながらより良い選書を期待したい。

委員：資料P4記載の通り、児童室の職員を中心に話し合っていて決めて良いのか。市民のお金を使っているから非常に大事なことだと思う。

【協議事項1 ブックスタートの配布本の見直しについて】

事務局：説明

委員：『ごぶごぶごぼごぼ』は読み手の技量が問われる本である。紹介する職員によって印象が変わるため、配布数が異なってくると考えられる。誰が読んでもある程度おもしろい絵本が良い。『ゆめ にここにこ』は、「ゆめ」が抽象的で子どもへの説明が難しい。2、3人目の子どもがいる家庭のため今までと違う本をとということだが、1人目の子どもで初めてブックスタートの本をもらった人がこの2冊をどう読むか心配である。選定する職員が集まり、読み聞かせし合っって受け取り方を確認したほうが良い。

委員：『いないいないばあ』『がたんごとんがたんごとん』は初期からあり、赤ちゃんが自ら寄ってくるため、お母さんが驚き絵本の良さに気が付く。ブックスタートは、絵本と赤ちゃんを結びつける活動であり、持っている人がいるから、何年も配布しているからという理由で配布本を変えることに疑問を持つ。出版年が古い本はお母さんが手に取らない。候補本は増やせないのか。

委員：候補が多いと迷ってしまう。定番を3冊残し、新しい絵本を2冊導入するのはどうか。絵本の読み聞かせを全くしない家庭に向けて行っている活動のため、定番を全てはずすのは厳しいと考える。

事務局：現在配布している5冊を全て持っているという声が以前より増えてきた。様々な組み合わせを考えてから選んだ5冊である。配布したことのない絵本を取り入れることに不安はあるが、今までの候補本が書店で購入されている現状を踏まえて今回見直した。

委員長：配布本の決定はいつまでに行うものか？

事務局：これまでは10月頃までに行い、「こんにちはえほん」の改訂を行っていた。今まで図書館職員で決めており、他から意見を聞く場がなかった。今年度子ども読書活動推進委員会が設置された。急がず、1年延ばして検討を重ねる必要がある。

委員：民生委員が3ヵ月の赤ちゃんを訪問する際、ブックスタートの紹介をしている。3歳、6歳は様々な方向に興味に向いてくるため、ブックスタートよりそちらへ注力したほうが良いと考える。

委員：選定に時間をかけたい。新しい絵本と定番の絵本を組み合わせるか、全て新しくするか、候補本の種類を5冊以上にするかを作業部会で検討したほうが良い。

委員長：10月に間に合わないようならば、来年へ持ち越す。これを含めて図書館で再検討していただきたい。現在の配布本と比べると定番が少ない。初めてブックスタートで会う親子のために定番は残すべきと考える。

【協議事項2 人材育成への取組みについて】

事務局：説明。読み聞かせボランティア養成講座への申込みは、現在28名。

委員：講座の意図が見えない。全ての講座を受講するのはハードルが高い。チラシから図書館がボランティアに求めている能力がわかる。初心者が全てを体得しないといけないかと感じてしまう。また、50名を一人で見るとは厳しく、人材育成のためには20名程に絞ったほうが良い。松本市には読み聞かせの有能な人材がたくさんいるが、全ての人から基礎から講座を受けなくてはならないのか。図書館や保健センターで読み聞かせをする人材が対象になるならば、本の勉強と読み聞かせで子どもたちに何を届けられるかを重点的に学べるようにしたら受講者が納得できる。図書館職員が受講したら勉強になると思う。本当に役に立つ人材を育てるような講座を開いていただきたい。

委員：委員長への負担が大きい。多くの人に関わった方が良い。

委員長：まず、計画ができ、予算化され実行されていることを評価していただきたい。まだ始まっていないものに対する要綱であるため1年間実施した結果を協議し、運用を見直す部分があると思う。今年度の後半に、すでに勉強している人、より学びを深めたい人向けのステップアップ講座を他の講師で計画している。

委員：読書案内人になるには、読み聞かせボランティア養成講座を受講しないといけないのか。

委員長：読書案内人は図書館長が必要に応じて有資格者や関係者を招集するもの。養成講座を受ける必要はない。

委員：小学校の読書活動がその後の人生に影響があるため、小学校の学校図書館司書を集めて、読書活動に重きをおいて運営していきたい。

事務局：庁内調整会議で共有、検討する。

委員長：読書案内人は折々で必要な人材を招集して考えていくもの。

【協議事項3 作業部会について】

事務局：説明

委員長：子どもどくしょノートは2020年に検討開始か、運用開始か。

事務局：早めに検討を開始し、5年間の中で運用開始としたい。

委員長：サードブックを2021年開始するのは決定か。

事務局：決定ではなく、予定である。

委員：中高生への働きかけは具体的にどのように想定しているか。

事務局：他の自治体の事例を参考にしながら、松本らしいものを考えていきたい。

委員：松本市は分館網がしっかりしていて予算もある。各館の特色を生かし、全館を一律にせず、例えばYAの拠点、紙芝居の拠点を設けてはどうか。車を使わない中高生が集まりやすい館を中高生のたまり場のようにする。

委員：中高生の居場所作りは社会教育委員で検討している。小学生のうちに読書習慣の土台がないと中高生で習慣化は難しい。中高生の居場所は別の課題とし、YAの拠点については5年目に考えることにし、まずは小学生の読書習慣作りから取り組むべき。

委員：作業部会について2019年度具体的にやること、委員が必ず参加するものなのか。事務局でどのように進めるか。

事務局：作業部会は、読書案内人が有償で行う。委員会が年2回開催であり協議ができないため、作業部会でその間を埋める。

委員長：作業部会に全委員が入ることはない。必要に応じてそれぞれの委員が召集される可能性がある。図書館として方針を固めて年度内に作業部会を開けるよう考えていく必要がある。

委員：作業部会は図書館職員も同席するのか。

事務局：同席する。

委員長：小中高生への働きかけ、学校との連携が深めていけるような計画をお願いしたい。

【各委員より出された今後に期待すること】

- ・ 小中高生へ本も良いよという視点で、計画を進めていきたい。
- ・ 皆が本好きになるような街になるよう協力する。
- ・ 多くの人が子どもの読書に関して、真剣に大人が議論する環境が様々な場で設けられる松本市になってほしく、それに協力したい。
- ・ 公募で選出されると思っていたが今後が楽しみである。2年間一生懸命やりたい。
- ・ 若い職員の方に期待したい。若い世代がわくわくした気持ちで活動ができるようバックアップしたい。
- ・ 図書館だけではなく、庁内での連携や市民が共に関わって松本の子ども読書を考えていく仕組みができつつあることに期待している。

以上